一般財団法人 岐阜ビジネスフューチャーズ 誕生

若き経営者・起業家を支援

岐阜から始まるイノベーションの旅

この度、私たちは一般財団法人岐阜ビジネスフューチャーズを設立いたしました。

私たちの使命は「真剣に経営者・起業家としての成長を望む岐阜の若手人材を支援し、岐阜経済の発展に寄与すること」です。

岐阜は、中部圏の中央に位置し、モノづくりのメッカとして長年の実績と誇りをもっています。しかしながら、デジタル化とグローバル化の時代の中で、経済の中心地である東京に比べて、私たちはさらなる一歩を踏み出す必要があります。

岐阜から、日本経済にとって不可欠な企業家を多く輩出することが、私たちの願いです。

設立メンバー

理　事　小栗 達弘　(株)岐阜造園 代表取締役会長
村瀬 幸雄　岐阜商工会議所 会頭
石黒 明秀　十六銀行 取締役頭取
境　敏幸　大垣共立銀行 取締役頭取

評議員　廣瀬　修　岐阜県議会議員
棚橋 泰之　(株)技研サービス 代表取締役社長
大谷 一夫　経営コンサルタント

監　事　舟橋 恵一　(株)岐阜造園 取締役

一般財団法人 岐阜ビジネスフューチャーズ　〒500-8268 岐阜県岐阜市茜部菱野四丁目79番地1　☎058-214-2515　お問合せ：info@gifubiz.or.jp

私たちの3つのメッセージ

革新を促す岐阜経済

「出る杭は打たれる」と言う慣習を打破し、挑戦する全ての人にベストな機会が与えられる環境づくり

報奨のある岐阜経済

真面目に努力する人々が報われる経済システムを築き、それぞれの成果が正当に評価される仕組みづくり

知識共有の岐阜経済

情報が溢れる時代にあって、誰もが学び、成長できるよう、知識と経験を共有する環境の整備

(株)岐阜造園　代表取締役会長
小栗　達弘

岐阜ビジネスフューチャーズの代表理事の小栗達弘です。

本財団法人の設立目的は「真剣に経営者・起業家としての成長を望む若手の人材を支援し、岐阜経済の発展に寄与する」であります。

この目的のもとに快く賛同をいただきました設立メンバーの皆さんとスタートできますことを心から感謝申し上げます。

私の仕事の紹介をさせていただきます。岐阜造園には1969年に入社しましたので今年で55年になります。大学では食品化学を専攻し、就職は森永や雪印から内定をもらっていました。しかし、急遽家業を継ぐことになり千葉大学の園芸学部造園科で学びなおしをしました。入社して、この造園という職種は学問的にも業界的にも全てが職人感覚思考で、一建設業として確立し発展させていくためには多くの改革が必要だと思い知らされました。

入社当時は日本列島改造論時代で、当時の大手住宅メーカーが長良台ニュータウンを造成し岐阜での華やかな高級住宅タウンの先駆けとなり、ガーデンエクステリアの工事が豊富にありました。あの時代はどんな職種でも皆が大儲けを経験しました。またその後、バブル景気が始まり日本経済は急激な右肩上がりの拡大路線を進みました。バブル経済の崩壊が始まった1990年頃にも岐阜では毎年3カ所程の豪華なゴルフ場がオープンしており、これらゴルフ場造成工事は弊社の大きなドル箱でした。その後の1995年頃から始まった日本経済の停滞路線は今も続き、家庭にとっては給料も上がらず、最近「失われた30年」という言葉で表現されています。

私はこの50年間の仕事のなかでで3つの大きな経験と勉強をしました。

一つ目は30歳代に銀行さんの勧めで岐阜青年会議所に入会しました時に、その入会式の会場で先輩会員から「庭師、JCバッジを取れ。」と言われ困惑した経験。ある監査法人の岐阜事務所に上場の相談にいきましたら「造園屋さんでは上場は無理でしょう。」と言われて社員と二人で悲しい気持ちで帰ってきた経験。これらの出来事から造園業は見下されているということに気づき、余計に頑張らねばという気持ちが大きくなりました。

二つ目は弊社が名古屋証券取引所へ上場申請をし上場審査を受けている時でした。弊社にとってマイナスの内容の手紙が匿名で名古屋証券取引所に沢山寄せられ、名証の審査部で大変困惑されたとお聞きしました。上場審査の最終課題である私との社長面談で名証の社長さんから、「この様な誹謗中傷の手紙にへこたれずに頑張りなさい」という温かい言葉をいただき感激しました。「出る杭は打たれる」という言葉を大いに実感しました。

三つ目は名証で上場審査が合格した後に、東京の機関投資家周りをして会社説明会を行う機会がありました。ロードショーと言い、上場時の株価の決定に係る大切な行事であります。その説明会でお会いした東京の優秀なビジネスマンとの話の内容に大きなカルチャーショックを受けました。やはりビジネス・経済は東京にあるなと。我々中部圏はモノづくりのメッカであります。東京の経済は、更にその上にデジタルを駆使し、究極のマーケティング・ブランディングの提供を付加し、まさしくデジタル資本主義経済を大きく牽引しています。

私は人生にとってこの大きな3つの経験から学んだことを活かし、真剣に経営者・起業家として成長を望む若き岐阜の皆さんに是非とも頑張っていただき、そして岐阜の地から日本の大切な企業家に大勢の人財が育っていただきたく、何かお手伝いができないかと思うようになりました。

私からのメッセージ

1．出る杭は打たない岐阜経済

2．真面目に頑張る人が報われる岐阜経済

3．情報の提供が満ち溢れ

誰もが学びのできる岐阜経済

岐阜の若き経営者・起業家の皆さんと「岐阜から始まるイノベーションの旅」にスタートしたいと思います。頑張ってまいりましょう。

ビジネスチャレンジアリーナ

岐阜商工会議所　会頭
村瀬　幸雄

財団法人設立、心よりお慶び申しあげます。

代表理事である小栗さんは、これまで岐阜の造園業界を牽引されるとともに、卓越した経営手腕を発揮され、株式会社岐阜造園を名古屋および東京証券取引所の上場企業に育て上げられました。また、岐阜経済の発展には若手経営者の育成や活躍のための支援が必要であるとの積年の思いを実現されました。

より豊かな社会の創造に向け、若い経営者が社会を変えていこうと積極的にチャレンジすることがこれからの日本には必要です。商工会議所、金融機関、行政等の支援のみならず、小栗さんのような素晴らしい実績を積み上げられておられる経営者の助言や支援こそが、起業から事業拡大に至る過程で様々な困難に立ち向かう若い経営者にとって大きな支えとなります。

全国的にもあまり例を見ない今回の小栗さんの取り組みにより、多くの若手経営者が成長し、岐阜経済のみならず日本の将来を担う人材を輩出されることを心より祈念いたします。

十六銀行　取締役頭取
石黒　明秀

若手経営者・起業家支援組織の設立、心よりお祝い申しあげます。

当地をはじめとする地域経済において、少子化の進展や都市部への若年層流出による人手不足、脱炭素化社会への対応など、企業を取り巻く環境は大きな変革期にあります。

都市部の動きと捉えられがちなスタートアップ企業の創出は、地方においても大きな可能性を秘めています。若手起業家が生み出す革新的なビジネスモデルや商品・サービスは、新たな市場や雇用機会の創出に留まらず、サプライチェーンの形成、ひいては地域社会全体にイノベーションをもたらすものであります。また、こうした起業家を継続的に支援する組織も欠かせません。

「私たちの使命」として「お客さま・地域の成長と豊かさの実現」を掲げる十六銀行といたしましても手を携え、この財団より多くの若手経営者や起業家が巣立ち、地域経済の発展、持続可能な地域社会の実現に繋がることを心より祈念いたします。

大垣共立銀行　取締役頭取
境　敏幸

素晴らしい財団がここ岐阜の地に誕生したことは本当に喜ばしく、心からお祝い申し上げます。

本財団の設立目的は「岐阜経済の発展に寄与する」とありますが、我々、OKB大垣共立銀行も1896年に設立以来127年に渡り、経営の基本理念『地域に愛され、親しまれ、信頼される銀行』に基づき、岐阜経済の発展のため地域の皆様と共に歩んできました。

そしてこれからも、地域金融機関として、岐阜の経済が10年、20年、更にその先へも発展していくために尽力していく所存でございます。

本財団におきましても、岐阜の若き経営者・起業家の皆さんと『岐阜から始まるイノベーションの旅』に出発されると思いますので、様々な部分において連携し地域一体となり取り組んでいけるようにサポートしていきたいと考えております。

岐阜県議会議員
廣瀬　修

財団の設立メンバーとしてお声掛けいただきました代表理事の小栗様に深く感謝申し上げます。

本財団法人の「真剣に経営者・起業家としての成長を望む若手の人材を支援し、岐阜経済の発展に寄与する」という設立目的をお聞きし、まさに、18年の議員活動の中で私自身が大切にしてきた岐阜への思いの一つでもあったため、目的の達成に向けて、『一般財団法人岐阜ビジネスフューチャーズ』の素晴らしい設立メンバーの皆さまと今後活動できると思うと、期待と希望でいっぱいです。実のところ、お声掛けいただいた当初は「私で大丈夫か?」と恐縮していたのですが、今は、岐阜が明るい未来に向かっていく活動メンバーの一人に私を選んでくださったことを、心から嬉しく光栄に思っています。

私は、中高生の頃から「人生は一度きり、後悔しない人生を送る」という思いを大切に、自身の行動を選択してきました。大学進学時は「日本の中心で暮らしたい」という思いで、東京の大学に進学しました。バブル崩壊の数年前でしたが、東京には岐阜では経験も想像もしたことがない事や人が溢れていました。私の周りには生き生きと自分軸で行動している人が多く、「人生は一度きり、後悔しない人生を送る」という思いは更に強くなりました。

その後、25歳で岐阜に戻り、35歳で岐阜市議会議員となり、44歳で岐阜県議会議員となり、現在に至っています。「広瀬は運がいい」とよく言われます。多くの皆様に支え助けていただき、感謝の絶えない毎日を過ごしている私は、本当に運がいいと思っています。しかし、常に自分の意志と周囲の意見が一致しているわけではありませんでした。市議会議員だった私が県議会議員に立候補しようと決心した時には、「何故、勝てない戦いをするのか?」と、ほとんどの方が反対しました。しかし、私に相談をしてくださる方々の問題を解決していくためには、自分自身の幅を広げる必要があると考えた私は、勝つか負けるかではなく、後悔しない議員活動をすることを選択しました。今現在、県議会議員として9年間の経験を積み、問題解決の幅は広がっていると自負しています。もし、あの時、挑戦していなければ、後悔していたかもしれません。

本財団法人では、経験豊富な素晴らしい方々が、経営者・起業家としての成長を望む若手の皆さまの成長のため・岐阜の発展のため、支援してくださいます。こんな有り難いことはありません。私もメンバーの一員として、共に刺激を与え合いながら共に成長していきたいと思っています。若手のみなさま、是非ともどんどん飛び込んできてください。そして、本財団法人の活動を通して、岐阜の発展から日本の発展にも寄与できる人材へと成長されることを期待しています。

人生は一度きり、共に、後悔のない人生を送りましょう!

ビジネスイノベーターズハブ

(株)技研サービス　代表取締役社長
棚橋　泰之

財団の設立にあたり、代表理事の小栗様をはじめとする岐阜商工会議所会頭村瀬様、十六銀行頭取石黒様、大垣共立銀行頭取境様のような岐阜財界を代表する方々からお声がけをいただき、身に余る光栄であり心より深く感謝を申し上げます。また「真剣に経営者・起業家としての成長を望む若手の人材を支援し、岐阜経済の発展に寄与する」という設立目的を実現するために誠心誠意、尽力して参りますのでよろしくお願いいたします。

弊社について少し触れますと、昭和38年に岐阜市でお掃除屋さんとして創業し、そこからビルメンテナンス、警備、公共施設の指定管理、外国人を含む人材派遣、デジタルマーケティング、地方創生事業と小さな小さなイノベーションを繰り返しながら事業領域を拡大して参りました。現在では7年連続増収増益を達成し、グループ会社10社、総スタッフ数は2000名を超える企業に成長することができました。

しかしながら全て順調にきた訳ではなく、事業承継の失敗から経営破綻寸前の状況も経験しましたし、売上が伸びない、利益も全く出ない状況が長く続いたことから経営の「怖さ」は身を持って痛感しています。一方で仲間の大切さやイノベーションを起こしながら事業領域を拡大していく経営の「楽しさ」も実感しています。そして近年では、一昨年の岐阜大学地域協学センターとの覚書の締結をかわきりに、岐阜県内の中小企業5社で合同インターンシップを開催したり、大学生や高校生を対象とした学生フェスを開催するなど、次世代リーダー育成の分野にも新しく挑戦し、岐阜経済の未来づくりにも注力しています。

今回の財団法人設立にあたり私自身の役割を客観的に考えますと、これまでの経営者としての経験や知識をお伝えすることはもちろんのこと、インターンシップなどで培ってきた次世代リーダー育成のノウハウを惜しみなく提供し若手人材の成長の機会を創ることで、岐阜経済の発展に寄与することだと理解しています。そしてもう一つ大切なことは、この財団法人の評議員を担わせていただく私自身の成長ではないかと考えています。すでに財団法人の先輩方とは「上場の方法」や「有益なM&A」、「経営計画書の必要性」や「株の承継」についての意見交換なども行われており、他では絶対に聞くことができない『リアル』を市場の最前線で戦ってこられた実践者から教えていただく大変貴重な勉強の機会がありました。このような機会にはもっともっと多くの岐阜の若手経営者に触れていただきたいと思いますし、若手経営者の可能性を最大限引き出すことに繋がると考えております。

ぜひ一緒に学び、飛躍の機会を手に入れましょう。そして、岐阜経済の発展に貢献していきましょう!!

経営コンサルタント
大谷　一夫

この様な素晴らしい財団設立に携わらせて頂いたこと、身に余る光栄として深く感謝申し上げます。

約3年前に岐阜県美濃市に家族で移住し、現在は官民両面で新規事業創出の仕事に従事しております。それ以前は、総合商社・経営コンサルティングファームでの勤務後、東京都・愛知県・つくば市等、全国10地域の創業・スタートアップ支援事業に関わって来ました。まだ何も成し遂げていない若輩者で僭越ながら、そんな外の視点も織り交ぜ、岐阜発イノベーションを考える上で重要な3つのキーワードをご紹介させて頂きます。

1つ目は『起業家精神』です。急速なテクノロジーの発展や予測不可能な社会情勢が訪れる現在、高度経済成長時代に形作られた終身雇用をはじめとしたあらゆる仕組みに変革が迫られています。戦後の焼け野原という逆境から日本という世界有数の経済大国を創り上げた先人達のように、これからの時代では、既存のものに依存するのではなく自ら仕組みやルールを創り変え、創造していく心構えが必要なのかもしれません。現在県内の教育現場の多くで探求教育といった子供の非認知能力を伸ばす試みが実践されていますが、「世の中の課題に対して新しい解決策を打ち出し、リスクを恐れずに立ち向かっていく」資質としての起業家精神は全世代に問われているように思います。

2つ目のキーワードは『第二創業』です。岐阜県内には全産業の付加価値額の約30%を占める製造業を筆頭に、素晴らしい技術力や競争優位性を持った企業も多く存在されています。一方で、今後10年・20年先も激化する市場環境の中で選ばれ続けるには、既存事業に因われない経営革新を必要としている会社も少なくないかもしれません。デジタル活用、海外マーケット進出、外部企業とのオープンイノベーション、事業承継、社内新規事業プログラム等の実践や掛け算を通じて、新たな成長の源泉となる新事業を生み出す第二創業を戦略的に仕掛けていくことがより重要になっていると推察しています。

最後は『切磋琢磨できるコミュニティ』です。まだ世に無い事業に挑戦する起業家が「出る杭」として打たれず、様々な困難と大きな壁を乗り越える鍵は、どの時代も「人の繋がり」なのではないでしょうか。

顔の見える関係を創りやすい岐阜だからこそ、産業・世代・地域の壁を越え、起業家同士が切磋琢磨し、支える環境の充実が求められているように感じています。そうしたコミュニティから育った起業家が、いずれ先輩起業家となり後輩を支援するといった循環と生態系が生まれれば、岐阜県内のイノベーションの裾野が持続的に拡大していくと考えています。

不確実な社会を生き抜く力である『起業家精神』を涵養する土壌と人財が育ち、新しい起業に加えて時代の変化に対応した『第二創業』が活性化し、産業・世代・地域の壁を越えて『出る杭』を『支え合い競い合えるコミュニティ』が醸成される。きっとその先に、様々な岐阜発イノベーションと未来の豊かな地域社会が顔を覗かせてくれるのではないでしょうか。当財団がその端緒を担えるよう、県内の偉大な先人の皆様と一緒に事業を形にしていきたいと、希望に胸を膨らませています。